

## R2 授業改善プラン（国語）

学 年	・課題（児童の実態）	○具体的な改善プラン
1 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひらがなを正しく書くことが難しい児童が多い。</li> <li>・相手の話を集中して聞けない児童がいる。</li> <li>・自分の考えや思いに自信をもって伝えることができない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り返し、ひらがなの定着を目指し、ノートやプリントを使って書く機会を増やす。</li> <li>○話を聞く時の「あいうえお」や児童の実態に応じた聞くポイントを提示して、常に意識させる。</li> <li>○伝え合う活動では、自分の思いを書き出してから伝えさせたり、話し合いでペアなどの少人数の場面を設定したりするなど、安心して伝えられる環境を整えていく。</li> </ul>
2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の漢字を用いて、文を書く習慣が身に付いていない児童が多い。</li> <li>・自分の考えや経験したことを文に表すことが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○板書をノートに写す際には、既習の漢字を使うように声をかけ、板書を視写させたり、個別に指導したりする。</li> <li>○モデル文を示して、始め・中・終わりの構成や順序を意識させて書かせる指導を繰り返す。</li> </ul>
3 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字や語彙の習得が苦手な児童が多い。</li> <li>・文章を書くことに苦手意識をもっている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習活動を通して、辞書などを使って漢字や言葉の意味を考えながら作文する機会を多くつくる。</li> <li>○明確なテーマと文章の基本文型を掲示し、「何を」「どのように」書くのかを意識させながら書かせる指導を繰り返す。</li> </ul>
4 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の考えを書く」「表現する」ことが難しい児童が多い。</li> <li>・文の書き方や構成を意識することが難しい児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文を書く習慣として、学習感想等を毎時間書かせるようにする。書いたものを発表するなど、子供たち同士で共有し、書いてよかったという実感をもたせる。</li> <li>○つなぎ言葉や文章の書き方、始め・中・終わりなど、どのように書くかを初めに提示したり、モデル文を提示したりしていく。</li> </ul>
5 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字や語彙の習得が苦手な児童が多い。</li> <li>・伝えたいことを明確にして、分かりやすい文章を書くことが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新出漢字の練習では、熟語を調べさせたり、その漢字の例文を確認させたりし、小テストを定期的に実施し習熟を図る。</li> <li>○書く相手や目的を意識できるように、授業の導入や教材を工夫する。さらに、書かせた文章は必ず視点を絞って振り返らせ、児童同士で共同推敲をする機会を設ける。</li> </ul>
6 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙の少なさから、表現の幅が狭く、スピーチをしても決められたことしか言えない児童が多い。</li> <li>・書くことが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達のよい表現や言葉の使い方を掲示し、視覚的に活用できるようにしたり、意図的にスピーチする回数を増やしたりして、よい模範例を多く示せるようにする。また「話すこと・聞くこと」のCDを活用し、耳からも語彙を増やせるようにしていく。</li> <li>○書くことが得意な層を増やし、2, 3人のペアで教え合うような機会をつくる。読み合わせたり、モデル文で学ばせたりすることで、書くことに慣れさせていくよう指導する。</li> </ul>